

大阪市立新箕中学校 国語科

1. 学習のねらい

学習の目標	国語で表現されたものを正確に理解し、それぞれの思いや意見等を適切に表現することができるように、国語に対する知識を深め、伝え合う力を伸ばす。
使用教材 授業計画	教科書は「国語」（光村図書）を使用。 資料集や文法書など、各単元に応じて副読本を使用する学年もある。 その他、ノートやファイルを使用しながら授業を進めていく。 各教材の学習時期や、書写、文法の学習時期は、必要に応じて決めている。また、各単元の学習順序は、状況に応じて入れ替わることもある。

2. 評価の観点および方法

評価の観点		評価の方法
① 国語への 関心・意欲・態度	国語に対する関心を深め、国語を尊重し、すすんで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	学習活動へのかかわり方、出席状況、ノート・提出物の達成度により評価
② 話す・聞く能力	自分の考えを豊かにしたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりする。	聞き取りテスト、音読テスト、暗唱テストなどにより評価
③ 書く能力	自分の考えを豊かにしたり深めたりして、目的や相手に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。 書写については、文字を正しく整えて書く。	作文、書写の達成度により評価
④ 読む能力	目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんだりする。	定期テストなどにより評価
⑤ 言語についての 知識・理解・技能	表現と理解に役立てるための音声、語句、語彙、文法、漢字等について理解し、知識を身につける。	漢字・語句・文法等、定期テストなどにより評価

3. 学習方法についてのアドバイス

学校	私語（授業に関係ない勝手な話や会話）をしない。 人の話をしっかり聞き、自分の考えや意見を持つとする。 積極的に発表し、疑問に思ったことは質問する。
家庭	教科書・ノートを読み返し、その日学習したことを復習する。 宿題が出されたら必ずやりきり、期限内までに提出する。

4. 学習計画

各単元と主な内容		学習目標
1年1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・野原はうたう ・にじの見える橋 ・話し言葉と書き言葉 ・ダイコンは大きな根？ ・ちょっと立ち止まって ・漢字の組み立てと部首 ・はじめての詩 ・言葉のまとまりを考えよう（言葉の単位） ・習字 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが伝わるように音読する。 ・登場人物の行動から気持ちの変化を読み取る。 ・「話し言葉」と「書き言葉」を理解し、実際のコミュニケーションに生かす。 ・段落の役割に着目して内容を読み取る。 ・段落どうしの関係に注意して構成を読み取る。 ・漢字の構成部分としての「偏旁冠脚」を理解する。 ・詩の言葉の豊かさに触れ、ものの見方や感じ方を広げる。 ・日常書いたり話したりしていることと関連づけながら、言葉の単位について理解する。
1年2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・星の花が降るころに ・大人になれなかった弟たちに…… ・指示する語句と接続する語句 ・シカの『落ち穂拾い』ーフィールドノートの記録から ・音読を楽しもう いろは歌 ・七夕に思うー語り継がれ、読み継がれてきたもの ・蓬萊の玉の枝ー「竹取物語」から ・今に生きる言葉 ・流水と私たちの暮らし ・漢字の音訓 ・習字 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面展開や情景描写などに注意して、登場人物の心情の変化を読み取る。 ・情景描写や登場人物の行動から心情をとらえ、作者の思いを読み取る。 ・それぞれの語句の働きや効果を理解する。 ・図表と本文の関係をつかみ、図表の役割を捉える。 ・おおまかな意味を捉え、リズムよく音読する。 ・各時代の七夕への思いを読み取り、変わらぬものの見方を知り、古典への関心を高める。 ・古文のリズムや古語に親しんで音読し、人物の心情や行動について考え、内容を捉える。 ・故事成語とは何かを理解し、漢文を読み慣れる。 ・文章を要約しながら筆者の考え方を捉え、自分の考えを広げる。 ・漢字が日本文化に伝えられた背景を踏まえながら漢字の読みの多様性を理解する。
1年3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・少年の日の思い出 ・さまざまな表現技法 ・単語の分類 ・漢字の成り立ち ・木は旅が好き ・習字 	<ul style="list-style-type: none"> ・展開や描写から、登場人物の心情の変化を捉える。 ・さまざまな表現技法の特徴と効果を理解する。 ・単語の性質や活用について理解する。 ・漢字の成り立ちを知り、漢字の特徴を理解する。 ・作者の思いを想像しながら読み、自分のものの見方や考え方を広げる。

各単元と主な内容		学習目標
2年1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・明日 ・アイスプラネット ・枕草子 ・類義語・対義語・多義語 ・やさしい日本語 ・熟語の構成 ・新しい短歌のために ・自立語 ・メディアと上手に付き合うために ・習字 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の内容を味わいながら、作者の思いを捉える。 ・登場人物の言動に着目し、作品を読み味わう。 ・古文特有の言葉遣いやリズム感を味わいつつ、作者のものの見方や感じ方を捉える。 ・それぞれの語の意味や用法を理解する。 ・文章の全体と部分の構成や関係を捉える。 ・熟語の成り立ちの仕組みを理解する。 ・作品の表現に即して情景や心情を読み取る。 ・自立語の特徴と働きを理解する。 ・表現された情報を整理し、内容を読み取る。

2年2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・盆土産 ・字のない葉書 ・敬語 ・君は「最後の晩餐」を知っているか ・平家物語 ・扇の的―「平家物語」から ・仁和寺にある法師―「徒然草」から ・漢詩の風景 ・用言の活用 ・モアイは語る―地球の未来 ・同じ訓・同じ音をもつ漢字 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の描写から人柄や心情を読み取る。 ・それぞれの場面の登場人物の描写から心情を捉え、筆者の思いを読み取る。 ・敬語の種類や働きを理解し、適切に使い分ける。 ・用語の使い方や表現に注意して読み、自分のものの見方や考え方を広げる。 ・朗読を通して古典に親しみ、登場人物や作者のものの見方や考え方を感知取る。 ・場面の状況を読み取り、登場人物の心情を読み取る。 ・漢詩を読むための基礎的な知識を学習し、漢詩特有の言葉遣いや調子を読み味わう。 ・用言の活用の仕方について理解する。 ・文章の構成に着目し、段落の役割や論理の展開の仕方を捉える。 ・辞書を使うなどして、文脈に応じて適切な意味の漢字を使い分ける。
2年3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・走れメロス ・付属語 ・方言と共通語 ・送り仮名 ・言葉の力 	<ul style="list-style-type: none"> ・人物や情景の描写に着目して、作品を読み深める。 ・助詞や助動詞の意味や用法について理解する。 ・方言と共通語の特徴や違いを理解し、自分の言語活動を振り返る。 ・送り仮名の原則を理解する。 ・筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める。

各単元と主な内容		学習目標
3年1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・朝焼けの中で ・握手 ・和語・漢語・外来語 ・月の起源を探る ・熟語の読み方 ・俳句の可能性 ・蟬の声 ・高瀬舟 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人間に対する筆者の思いを捉える。 ・作中の言葉やエピソードから人物像を捉える。 ・それぞれの語の成り立ちや特徴を理解し適切に使い分けることができる。 ・論理の展開や表現の工夫について自分の考えをもつ。 ・熟語の読みの原則を理解し、音訓を意識して読む。 ・伝統的な言語文化に触れ、ものの見方や感じ方を豊かにする。 ・場面展開や人間関係を捉え、作品を読み深める。
3年2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶―原爆の写真によせて ・故郷 ・慣用句・ことわざ・故事成語 ・古今和歌集 仮名序 ・君待つと一万葉・古今・新古今 ・夏草―「おくのほそ道」から ・ネット時代のコペルニクス ・文法のまとめ ・習字 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者のものの見方や考え方に着目し、人間や社会について考える。 ・情景や人物描写から心情を捉え、社会と人との関係について考える。 ・伝統的な言い回しの語義を理解し、自分の表現上の工夫に生かす。 ・古文の言葉のリズムや響きを味わう。 ・和歌に詠まれた古人の心情や情景を読み取る。 ・優れた表現や文体の特徴に注意し、作品を読み味わう。 ・論理の展開を捉え、自分の意見をもつ。 ・中学校三年間で学習した文法についての知識、考え方を整理する。
3年3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・学びて時にこれを習う―「論語」から ・アラスカとの出会い ・温かいスープ ・聴くということ ・わたしを束ねないで 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代にも通じる古人のものの見方や考え方を捉える。 ・筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広げる。 ・論理の展開を捉え、筆者の考えを理解する。 ・詩に表現された作者の思いを読み取る。